

令和4年度  
文部科学省寄附フォーラム

# 寄附募集の取組について

---

© Osaka Metropolitan University All Rights Reserved.

公立大学法人大阪  
広報課ステークホルダー連携推進室



共に約140年の歴史を持つ大阪市立大学と大阪府立大学が融合し、2022年4月に開学した**全国最大規模**の公立総合大学

メインキャンパスは市大の「杉本キャンパス」、府大の「中百舌鳥キャンパス」に加え、大阪城の東側に1年次の基幹教育などを行う「森之宮キャンパス」を整備中（2025年供用開始予定）

「総合知で、超えていく大学。」  
をキャッチコピーに、多彩な学問領域を活かした充実の科目体系からなる基幹教育を土台に、高度な専門教育、世界へと発信する力を養うグローバル教育を融合し、これからの社会に向けた“新たな知”を創造を目指す。



▲森之宮キャンパス（イメージ図）

1880年 **大阪商業講習所**を創設（五代友厚ほか）

1928年 **大阪商科大学**を設立（日本初の市立大学）

1949年 大阪商科大学、大阪市立都島工業専門学校、大阪市立女子専門学校を統合して**大阪市立大学**が誕生

1955年 大阪市立医科大学を編入（医学部設置）

1959年 理工学部を分離独立（理学部および工学部設置）

2006年 公立大学法人大阪市立大学設立



▲杉本キャンパス



▲阿倍野キャンパス

1883年 獣医学講習所を設置

1949年 大阪府下にあった7つの旧制専門学校を母体に浪速大学を設立  
(1955年) 大阪府立大学に改称

1949年 大阪府女子専門学校を母体に大阪女子大学を設立

1994年 戦前からの医療人材育成の流れを受けて大阪府立看護大学を設立

2005年 公立大学法人大阪府立大学を設立

上記3大学を統合・再編し、新たに大阪府立大学として設立

2011年 大阪府立工業高等専門学校が移管され大阪府立大学工業高等専門学校に  
(2022年大学統合に伴い、大阪公立大学工業高等専門学校に)



▲中百舌鳥キャンパス



▲工業高等専門学校 (2011年に府より移管)

# ステークホルダー連携推進室

大阪市立大学の大学サポーター交流室、大阪府立大学の基金事務局、卒業生室の3つの組織が大学統合を機に合併。

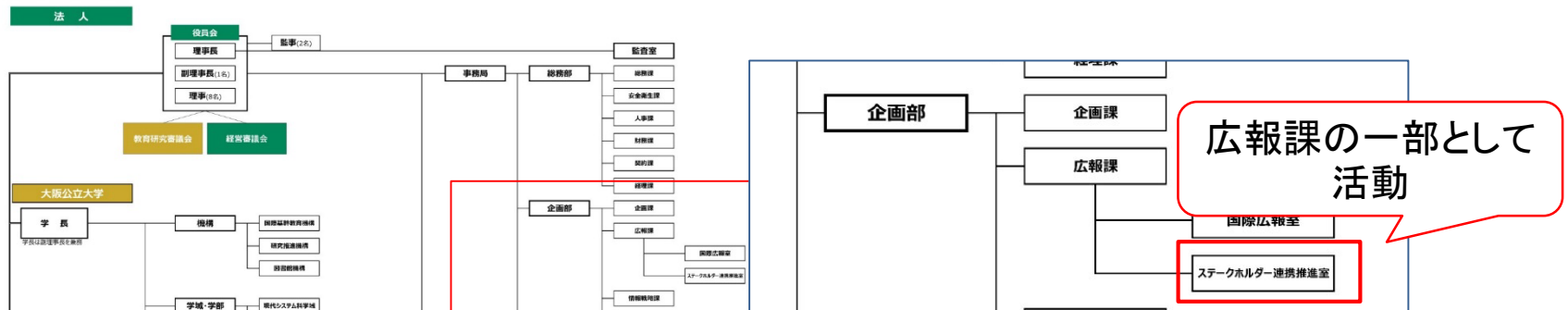
寄附獲得戦略の立案、寄附収受や基金管理にあわせ、卒業生・保護者等のステークホルダーに対する情報発信や、OBOG向けのキャンパスツアーの開催提案を行っている。

キャンパスツアーは大学の取組紹介にもつながり、寄附案内についても一定の効果が望める。

同窓会・教育後援会といった卒業生・保護者組織とも連携し、大学だけではできない部分の学生支援事業をサポートしている。

公立大学法人大阪 組織・機構図

2022年4月



# これまでの取組（大阪市立大学）

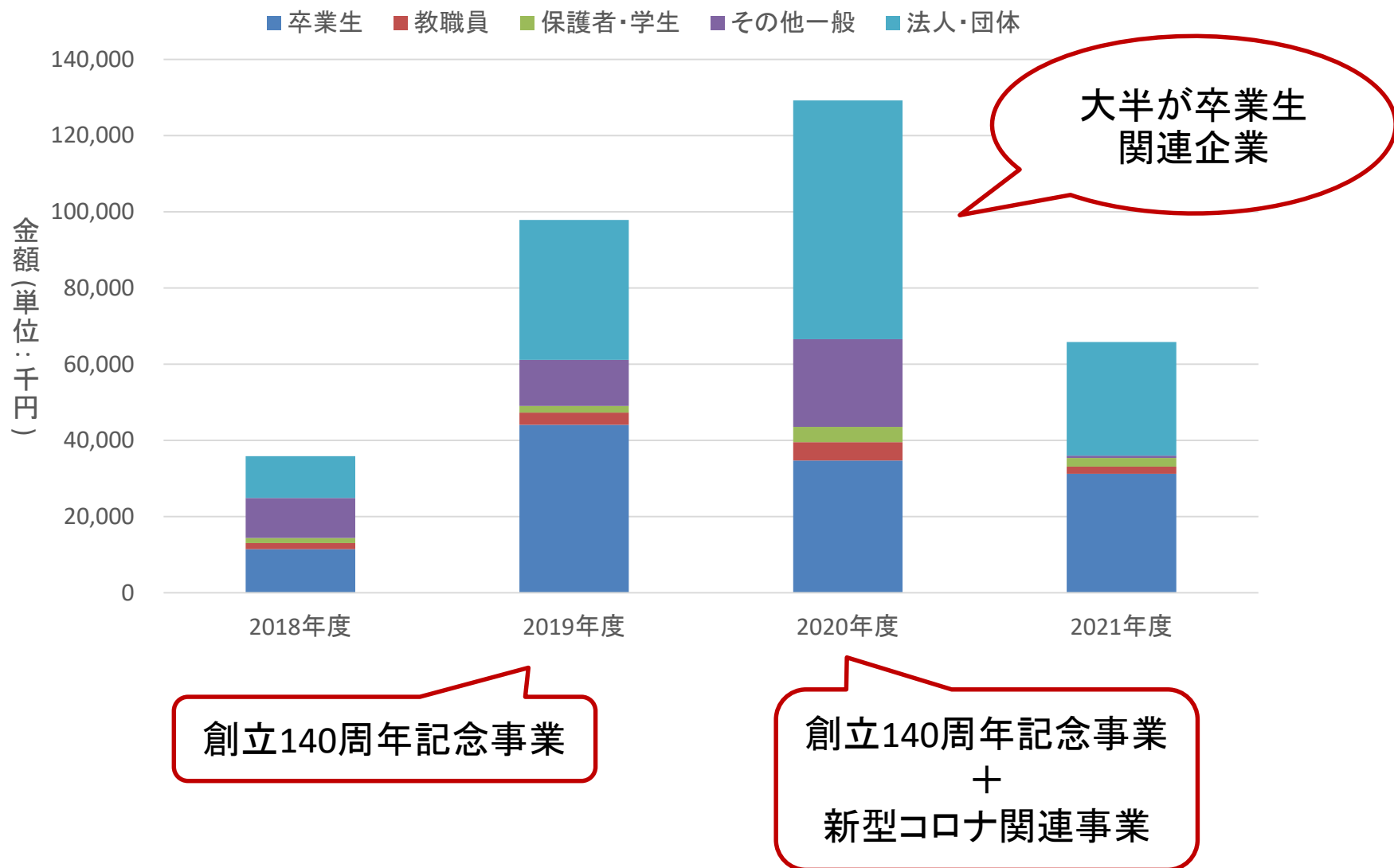
大阪市立大学では、**大阪市立大学夢基金**を設置し、寄附を募集

2009年10月	大阪市立大学創立130周年記念事業の一環として <b>大阪市立大学はばたけ夢基金</b> を設立（5年間の期間限定）
2010年	大阪市の協力により、1年間のみふるさと寄附金を活用してはばたけ夢基金への寄附が可能になる
2014年10月	はばたけ夢基金の募集終了に伴い、 <b>大阪市立大学夢基金</b> を設立、募集を開始
2017年1月	寄附者の意向をより反映できるよう、寄附目的を設定
2019年	創立140周年事業のため、寄附目的に「 <b>創立140周年記念事業のために</b> 」を追加

大阪市ふるさと寄附金の「市立大学振興関係」としては、学生ホールの整備事業、グローバル人材育成事業に限定して募集

# これまでの取組（大阪市立大学）

## ○大阪市立大学夢基金 寄附金額の推移（過去4年間）



# これまでの取組（大阪府立大学）

大阪府立大学では、**大阪府立大学・高専基金（つばさ基金）**を設置し、寄附を募集

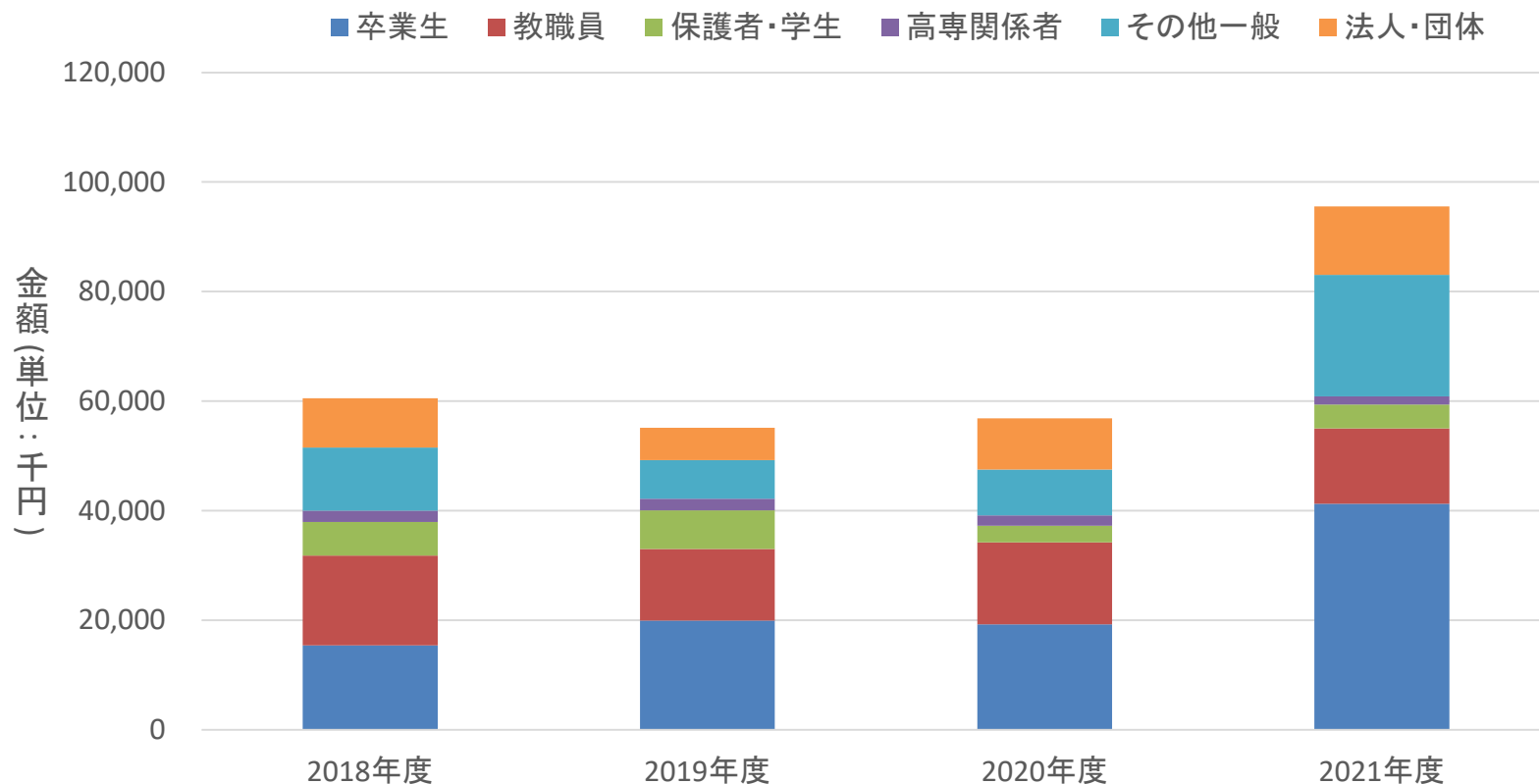
2009年3月	<b>大阪府立大学基金</b> を設立（愛称： <b>つばさ基金</b> ）
2011年3月	創基130年記念事業のため、 <b>創基130年記念基金</b> を立ち上げ、大阪府ふるさと納税制度を活用した寄附が可能に
2016年	基金の名称を <b>府大・高専基金</b> に変更（愛称はつばさ基金として変更なし）
2020年12月	創基140年記念事業のため、 <b>創基140年記念事業基金</b> を設置

つばさ基金への寄附は寄附目的を設定しておらず、使途の意向を記述方式で求め、特定の研究や課外活動への支援等寄附者の意向に沿った対応を行った。



# これまでの取組（大阪府立大学）

## ○つばさ基金 寄附金額の推移（過去4年間）



新型コロナ緊急支援金

創基140年記念事業  
＋  
新型コロナ緊急支援金

# これまでの取組（大阪市立大学）

## ○全天候型グラウンド事業

大阪市立大学体育会OB会連合からの要望・働きかけがあり、2017年より『全天候型グラウンド整備のために』を寄附目的に追加し、2019年からは『創立140周年記念事業』の一環としても寄附を募集した。

開学140周年年度の2021年3月、関西の公立大学では初の人工芝グラウンドが全額寄附によって完成した。



## ○緊急支援給付金ほか、新型コロナウイルス対策事業


市大では2020年5月、寄附を元手に学生に対し2,000名を対象に一人当たり最大5万円を給付する緊急支援給付金制度を実施。

その後も「新型コロナウイルスからの学生救済のために」として寄附を募集し、全学生・教職員向けのPCR検査事業や、リモート授業が開始されてからはPC・Wi-Fiルーターの貸し出しなど、授業の受講環境を整備するための事業を実施。

府大では2020年6月より「緊急学生支援」の寄附募集を開始すると同時に、10万円を上限とする緊急支援給付金制度を創設。

また、相談窓口（学生サービスセンター）、学生課、教員が連携し、学生の経済的不安を直接聞き取る体制を構築し、国による支援策の確実な利用・申請や、手厚い緊急支援給付金が受けられるようフォローした。

- 同窓会組織、保護者組織（教育後援会）と大学の間で三者連携の協定を結んでおり、三者による相互協力として、各会報の郵送時に寄附募集のパンフレット・チラシ等の同封、各ホームページやメールマガジンでの学内情報・寄附募集情報の発信を依頼していた。
- 特に新型コロナウイルスでの困窮学生支援に向けた寄附募集に際しては、同窓会長から卒業生に向けた支援のお願い、各学部ごとの同窓会組織の働きかけにより、短期間で多くの支援が集まった。

「新型コロナウイルス感染症」  
と闘うための寄附を  
募集しております 

---

学生の生活を守ろう！「学生救済」  
市民の命を守ろう！「研究支援」  
医療の現場を守ろう！「医療支援」

# 夢基金における効果的な取組等

○全天候型グラウンドの整備については、多くのクラブの卒業生が中心となり、各クラブ・サークルごとで寄附を呼びかけていただいたことによる相乗効果が起こり、事業達成につながった。

▶同窓会組織が作成したポスター



## OCUSAとは

平成2年(1990年)、市大は創立110周年を前に大学や社会の発展に向けて、皆様の協力が希望されております。皆様のご協力をいただき、同窓会や各クラブの活動を支援し、学生たちの活躍をサポートする場として、さまざまな取組を実施しています。具体的には、学生や卒業生が参加するスポーツフェスティバルやスポーツ施設整備やホームカミングイベントなど、多岐にわたる取組を実施しています。また、文化・芸術・スポーツ・国際交流センターや学生生活センターなど、さまざまな取組を実施しています。OCUSAは、学生スポーツ活動の発展を目的としています。

## 学生の人間形成と地域発展のため、全天候型グラウンド整備にご協力ください。

2020年に創立140周年を迎える本学では、記念事業の一つとして「全天候型グラウンド整備」を推進しており、2020年度の完成を目指しています。全天候型グラウンドは、ハイレベルな公式試合を行うことができ、地域の健康拠点ともなり得る施設。新人でも怪我をしにくく、雨天でも練習や試合が可能になる利点があります。今や公式試合の会場に、土のグラウンドは選ばれません。ご10年で、私立大学や国立大学、私立高校で全天候型グラウンドの整備が急速に進行している中、フィールドスポーツを行う学生からは、全天候型グラウンドを切望する声も寄せられています。それに加えてOCUSAの働きかけで建設されたのが、杉本キャンパスの「全天候型グラウンド整備プロジェクト」です。これが実現すれば、学生たちは天候や怪我を気にすることなく、思う存分授業やクラブ活動を打ち込むことができます。スポーツを通して精神力や協調性を培い、社会で活躍できるたくましい人材を育成できる環境が整うと考えております。在学生はもちろん、地域の方々にも活用していただける最新の全天候型グラウンド整備に、多くのご支援をお願いいたします。



大阪同窓会 荒川 哲男 HARA Tetsuo

- 大阪府ふるさと納税を利用した寄附制度を実現したことで、幅広い層からの寄附獲得に効果があった。
- 寄附の用途目的の意向を記述方式で求めたことにより、寄附者の意向を反映した事業に活用できた。
- 同窓会組織、保護者組織（教育後援会）と連携し、会報の郵送時には基金資料を同封してもらうなど、効果的な周知を心掛けた。
- 府大卒業生室が卒業生約7,000人に毎週発信していたメールマガジンでは、コロナ対策のための緊急学生支援を直接呼びかけることで、寄附獲得に大きな成果を発揮した。全体の寄附件数自体は微増であったが、用途に対する意見欄で「学生支援」を記述する寄附者が多く、周知による効果が見られた。

# これまでの取組における課題点

○市大夢基金では寄附目的を設定することで寄附の有効活用が可能だったが、特定の目的（全天候型グラウンド整備、附属植物園のため等）が少なく、寄附者の意図を反映しきれない状態だった。

○府大つばさ基金では寄附目的の意向を記述式としたことによって残高項目が多岐にわたり、管理に余分な時間がかかっていた。

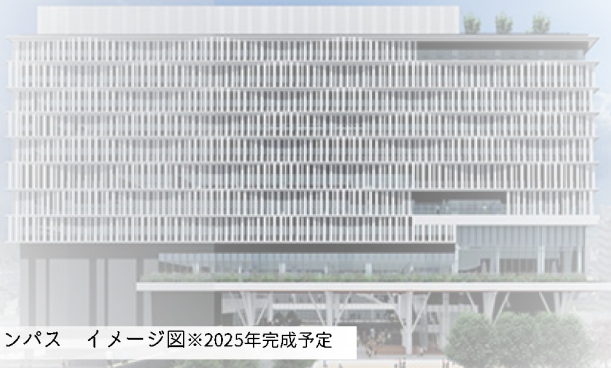
また、一部の意向については寄附額が少額のため事業計画を立てることが困難になっていた。

→上記の課題を踏まえ、新大学では寄附者の意向を反映した『その気にさせる寄附メニューづくり』と『寄附の手軽さを売りにした広報』を、事務の簡素化も視野に検討してきた。

市大・府大両基金の長所を引き継ぎ、新たな基金制度を設立

2022年4月 始動

## 大阪公立大学・高専基金



森之宮キャンパス イメージ図※2025年完成予定

総合知で、超えていく大学。

大阪市立大学、大阪府立大学が融合し、約1万6千人の学生を有する全国最大規模の公立総合大学として誕生した大阪公立大学。

大阪公立大学がより発展していくため、皆様からのご支援を募集しております。

### 新基金について

これまで両大学で運営されてきた『つばさ基金(府大・高専基金)』と『大阪市立大学夢基金』が新たに『大阪公立大学・高専基金』として生まれ変わりました。

新基金では、公立大だけでなく、市大、府大、高専も変わらずご支援いただくことが可能です。

今後、新基金の愛称を皆様から募集する予定です。

### 支援方法

大阪公立大学・高専基金では、府大つばさ基金方式⇒大阪府ふるさと納税制度を活用したご寄附(=**新つばさ基金**)、市大夢基金方式⇒法人へのご寄附(=**新夢基金**)をご用意しております。

新制度を立ち上げるにあたり、これまでの寄附者に対して

「新大学だけでなく、市大、府大の3大学すべての学生に支援できること」

「寄附方法はこれまでと変わらないこと」  
(= 寄附の手軽さ)

を打ち出し、大阪府ふるさと納税を通じた寄附を**新つばさ基金**、直接寄附を**新夢基金**としてPR



## ○選択制の寄附目的

寄附目的の設定においては大学・高専支援等に加え、学部・学域・研究科や特定のプロジェクトを支援可能な目的を設定し、より寄附者の意図を反映しやすい制度とした。

## ○大阪府ふるさと納税制度などを活用した寄附

大阪府及び大阪市のふるさと納税制度を活用している。

（大阪市ふるさと納附金はグローバル人材育成事業に限定）

大阪府のふるさと納税はいわゆる「返礼品制度」はないが、税額控除のメリットがある。

## ○直接寄附に対する顕彰

大学内の医療施設であるMedCity21の人間ドックご招待など直接寄附の方に対してのみの顕彰を設定

（＝ふるさと納税を利用した寄附との差別化）

- 大学の教育・研究の発展および社会連携のために  
大学運営の基盤事業費であり、基金運営費もここから支出
- 課外活動団体の支援のために  
各クラブ・サークルの援助や課外活動全体支援が可能
- 学部・学域・研究科のために  
15の学部・学域・研究科から選択しての寄附が可能
- 特定プロジェクトのために  
「イノベーションアカデミー構想の推進」や「大阪府立大学創基140年記念事業」、「1号館ミュージアム構想」など複数のプロジェクトから選択して寄附が可能

## 大阪公立大学「イノベーション・アカデミー(ia)構想」とは

「総合知による社会変革」と「知・人への投資」の好循環化を生み出す産学官協創リビングラボ、社会課題探索の場としてのソリューション施設、未来型人材育成のためのアカデミー施設としてなど、**産学官が協創して社会課題に取り組む拠点となるイノベーションアカデミー機能を設置・建設します。**

- ✓ ia構想を具現化するため、「**産学官共創イノベーションエコシステム**」を構築
- ✓ 各キャンパスの強みを活かし、大学全体に「**産学官共創リビングラボ機能**」を整備



- もりのみや本部（情報学分野＋本部機能）
- なかもずハブ/1-siteなんば（工学分野、環境分野、農学/バイオ分野）
- すぎもとウイング（理学分野、人文・社会科学分野）
- あべのウイング/うめだウイング（健康・医療分野）
- りんくうウイング（獣医学分野）

### 産学官共創リビングラボ機能とは

オープンイノベーションの拠点機能として、産学官が共創プロセスから実装と評価を重ね、現代社会の複雑な社会課題の解決に挑む。

- 森之宮キャンパスでは、都心立地を活かし、行政や企業との窓口機能のほか、行政データの活用や実証実験のコントロール機能を担う。  
(スマートシティ関連施設、産学連携施設、起業家育成・ベンチャーサポート系施設など)

## ○大学統合による寄附者離れ

これまで両大学を支援してきた方、特に卒業生の方にとって「母校の名前がなくなってしまう」という感覚が強く、大学の支援からは離れてしまうことが考えられる。

市大・府大の両メインキャンパスでのホームカミングデーの開催等、卒業生にとって新大学を母校として認識してもらえりような取り組みが必要になってくる。

## ○広報手段

ホームページでの広報や基金パンフレットの郵送、同窓会・教育後援会主催のイベントでのパンフレット配布等の充実強化に加え、大学SNS（Twitter、Facebook等）を組み合わせた情報発信など、より幅広い層、特に若年層にも届くPRが必要と考えている。

○寄附制度に関する問い合わせ先  
ステークホルダー連携推進室  
大阪府大阪市住吉区杉本3-3-138  
TEL：06-6645-3415  
Mail：gr-sta-kikin@omu.ac.jp

※大阪府・大阪市へのお問い合わせはご遠慮ください